

語感・言葉の使い分け

同じような意味の言葉にも、意味や用法、言葉の続け方に、微妙な違いがあります。

「事実」「事情」「事態」「実態」「実情」を例にとって考えてみましょう。これらの言葉は、近い意味をもっています。けれども、下の表の□内に、それぞれの言葉を入れてみると、しっくりくる場合と、こない場合とがあります。「語感」には、言葉の正しさや美しさだけではなく、その言葉が使われる際に適切であるかどうかを感じ取る感覚も含まれます。「語感」は、言葉と言葉の続け方（文脈）の中で磨くことが大切です。

●表の記号の意味

- 違和感がない言葉
- △ そのようにいえるが、どうもしっくりこない言葉
- ― その文脈では使いにくい言葉

緊急□発生。	□の推移を見守る。	単純な□にすぎない。	裏にひそむ□。	どんな□にも対処できる。	内部の□に詳しい。	□を暴露する。	□を收拾する。	□を聴取する。	
	△	○	○	△	△	○		△	事実
△		○	○	△	○	△		○	事情
○	○	△	△	○			○		事態
			△		△	○		△	実態
			△		○	○		○	実情